

## 第2回・第3回森町協働まちづくり委員会

- 日 時： 第2回 平成17年8月10日（水）19時30分から  
第3回 平成17年8月26日（金）19時30分から
- 場 所：町民生活センター 集会室
- 内 容：今後の委員会の進め方、これまでの総合計画策定の経緯、森町に関する主要データ、森町についての思いや感想等について
- 議事概要

- ◇ 会長より、「委員会の進め方」、「まちづくりの構想を議論するというのはどういうことか」等について確認。

### ＜委員会の進め方＞

- ・ 和気あいあいとざくばらんに意見を自由に言える委員会としたい。
- ・ そのためには、他人の意見を否定・批判しないことが肝要。
- ・ まちの活性化には交流が大きなカギ。この委員会こそが、出会い、交流の場であり、この出会いや交流の機会を大切にしていきたい。
- ・ まちづくりの提言は、その言葉の中にみんなの意見が透けてみえるようなものにしたい。

### ＜まちづくりの構想を議論するというのはどういうことか＞

- ・ 町の財政も厳しく、「あれか、これか」といった政策の選択が必要となってくる。
- ・ その場合、選択する際の判断基準やまちづくりの方向性が必要となってくる。それこそが、「まちづくりの構想」のベースとなる。
- ・ 「まちづくりの構想」を住民が中心となって、いろいろな人から意見を聞きながら考えていくことは非常に大切なことであり、欠かせない過程。

- ◇ 総合計画策定の経緯や森町の主要な指標について認識。

- ◇ 委員一人ひとりの森町に対する思いや感想について

### ＜主な意見＞

- ・ 三倉、天方地区は人口の減少が心配。人口の減少を覚悟することと同時に地域の魅力をアピールし、少子化対策もあるので、若い人が住みたいと思う地域にしていきたい。

- ・ これからのまちづくりには、他人任せにしないという町民の意識やその意識啓発が大事。そして、そのためのシステム構築を考えていきたい。
- ・ 財政状況の厳しさを考えると、まちにお金が入るような企業誘致や働き盛りの人が住みたいまち、子育てしやすいまち、教育のしっかりしたまちにしていくことがキーポイント。
- ・ 今後のよりよいまちづくりには、町議会・町職員の意識改革も大事。
- ・ 商店街や商業が元気がないのが気がかりであり、空き店舗の借り上げや土蔵の再活用などの活性化の手法などを考えていきたい。
- ・ 昔と比べ、子供の数が減少しており、寂しい。子供の声がいっぱい聞こえるまちにしたい。
- ・ 森町の豊かな森林資源を見直し、生かしていくことが肝要。
- ・ 都市の人と森町の人とが交流できるような機会をつくって、その機会を通じて都市の人が森町へ住み、人口が流入するような取組をやっていってはどうか。
- ・ 観光に力を入れて、観光客がお金を落とす仕組みをつくっていくことが大切。そのためには、交通機関の整備などの利便性の向上も大切。
- ・ 森町は自然環境もバランスがよく、歴史・文化もあるが、観光客を受け入れていく上では、地域のキャパシティを考えていくことも大事。
- ・ 太田川などの豊かな自然を生かしたまちづくりを進めていきたい
- ・ 日本だけじゃなく、世界とつながっているという視点が大事。
- ・ 泥くさくても良いので自らの言葉で、提言を考えていきたい。
- ・ 文化の薫りがあって、生きがいのあふれるようなまちにしていきたい。そのためには、個人事業者が生きがいにあふれるような元気なまちにしていきたい。
- ・ 予防介護等に力を入れ、お年寄りが多くても元気なお年寄りがいっぱいいるまちになればよい。
- ・ 人口の減少が迫っており、その急な変動が問題。若い世代の人が少なくなり、若い人への負担も多くなっており、その解消には、団塊の世代の退職後の活躍も大きなポイント。
- ・ 第2東名のパーキングエリアをうまく使って、いろいろな素材をリンクさせ、観光の充実を図っていきたい。
- ・ 森町の人柄の良さは観光客のもてなしにも、うまくマッチしていくと思うし、人間性の良さを生かしたまちづくりを進めていきたい。
- ・ 森町の紹介を行うパンフレットなどを工夫したり、キャンプ場が出来るような遊び場を設けていくことも豊かな自然を生かしたまちづくりにつながる。
- ・ 森町は自然も多くゴミの少ないまちであり、人を受け入れるには、そういう良さも無くさないことも大切。
- ・ 若い人達がまちづくりに参加できるような場を多く設けていくことも、元気のあるまちづくりに役立つ。

以上